

# SIRCAD<sup>®</sup>

ユーザーズマニュアル

INPUT DATA SHEET



株式会社 ソフトウェアセンター

<Program Ver4.00>

# 目次

基礎標準データ	1
杭標準データ	2
R C柱標準データ	3
R C梁標準データ	4
一般スラブ標準データ	5
中空スラブ標準データ	6
一般壁標準データ	7
地下外壁標準データ	8
根巻標準データ	9
開口標準データ	10
小梁仕口編集データ	11
S柱標準データ	12
S梁標準データ	13
鉄骨柱のパターン別入力方法	14
垂直ブレース標準データ	15
水平ブレース標準データ	16
ベースプレート標準データ	17
床組標準データ (スパン)	18
床組標準データ (小梁)	19
床組標準データ (壁)	20
床組標準データ (スラブ)	21
床組標準データ (水平ブレース)	22
壁組標準データ (スパン)	23
壁組標準データ (小梁)	24
壁組標準データ (間柱)	25
壁組標準データ (垂直ブレース)	26
柱継手編集 (フランジ)	27
柱継手編集 (ウェブ1)	28
柱継手編集 (ウェブ2)	29
梁継手編集 (フランジ)	30
梁継手編集 (ウェブ)	31
ベースプレート (アンカープランに出力)	32
記号の説明図 柱の継手	34
記号の説明図 梁の継手	35

## ご注意

- このソフトウェアおよびマニュアルの全部若しくは一部を無断で使用、複製することはできません。
- ソフトウェアは、コンピュータ1台につき1セット購入が原則となっております。
- このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果による影響に関しては、いっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
- このソフトウェアをご使用になるには、別掲の「ソフトウェア使用許諾条項」にご同意いただくことが必要です。ご使用と同時に、同条項へのご同意があったものとさせていただきます。
- XVLの著作権等は以下の通りです。  
「本ソフトウェアの一部は、ラティス・テクノロジー株式会社の所有物です。  
Copyright © 2002 Lattice Technology, Inc. All Right Reserved.」
- CAB32.DLLはフリーソフトウェアです。著作権等は以下の通りです。  
This dynamic link library is based in part on the Microsoft's CAB-SDK.  
Copyright © Microsoft Corporation 1993-1997 All Rights Reserved.  
Copyright © K.Miyauchi 1997-2001 All Rights Reserved.

### 商標について

- 日本語 **Microsoft® Windows®2000** は米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。
- 日本語 **Microsoft® Windows®XP** は米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。

# はじめに

このたびは、弊社取扱い製品をご購入頂きまして、ありがとうございます。  
ご利用になるときは、本マニュアルをご参照ください。

## 本書の構成

ユーザーズマニュアル（PDFファイル）の構成は次のようになっています。

- インストール編 (ファイル名：HelpS\_I.pdf)
- 入力編 (ファイル名：HelpS\_A.pdf)
- 作図出力編 (ファイル名：HelpS\_B.pdf)
- 設計数量算出編 (ファイル名：HelpS\_C.pdf)
- 構造計算データ変換編 (ファイル名：HelpS\_G.pdf)
- InputDataSheet (ファイル名：HelpS\_D.pdf)

PDFファイルは、インストール先フォルダの【HELP】フォルダに保存されています。

Ex) C:\Program Files\SIRCAD [Version 〇.〇〇]\HELP

## 各編の概要

### インストール編

プログラムのインストールに関わる内容について解説しています。

### 入力編

基本操作、建物概要、部材定義、部材配置等、入力に関わる内容について解説しています。

### 作図出力編

作図に関わる内容について解説しています。

### 設計数量算出編

設計数量算出に関わる内容について解説しています。

### 構造計算データ変換編

各種一貫構造計算データ変換に関わる内容について解説しています。

### InputDataSheet

個々の部材定義の入力データに関わる内容について解説をしています。

## 本書の利用方法

本書は項目毎に各編に分かれています。従って、必ずしも本書を最初から通して読む必要はありません。知りたい内容に係る部分をご参照ください。

# INPUT DATA SHEET

基礎標準データ

符号	タイプ	杭		S	杭頭径	軸径	拡底径	ピッチ	あき	杭長	M	B 1		B 2		斜		標準レベル		
		基礎	柱									D	B	D	D	D	D	D	D	層
F		杭	基礎									下	N	D	N	D	N	D		

## 杭タイプ

場所	タイプ	杭タイプ (S)		杭の中心間隔 (ピッチ)		杭芯から基礎スラブ縁までの長さ (あき)	
		掘底なし	掘底あり	2.0d1以上かつd1+1m以上	d1+d3以上かつd3+1m以上	d1/2+20cm以上	1.0a1以上
場所打ち杭	1	掘底なし	掘底あり	2.0d1以上かつd1+1m以上	d1+d3以上かつd3+1m以上	d1/2+20cm以上	
埋め込み杭	3			2.0d1以上		1.0a1以上	
打ち込み杭	4	既成PC杭	鋼杭 (閉端)	2.5a1以上かつ75cm以上		1.25a1以上	
	5	鋼杭 (開端)		2.0a1以上かつ75cm以上			

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29)

(1) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力が表示される。変更時は **BS** で消去。符号+英数字で5文字以内。

(2) 直接基礎は「0」、杭基礎は右図参照。

(3) 杭タイプは右図「杭タイプ」参照。

(4) 杭頭径 (mm)

(5) 軸径 (mm)

(6) 拡底杭 (mm)

(7) (8) 「0」を入力すると自動計算 (杭タイプ参照)

(9) 杭集計表に出力。

(10) 杭マーク、右上図参照。

(11) Xは横長、Yは縦長に杭を配置 (タイプ 11, 31, 32, 33はXのみ可能)

(12) (13) 「0」を入力すると自動計算 (pi, ak より)

(14) 元端厚 (mm)

(15) 先端厚 (mm)

(16) リスト作図時の捨てコン厚 (mm)

(17) リスト作図時の捨て割グリ厚 (mm)

(18) (27) } 三角基礎の場合

(19) (28) } 本数-鉄筋径 (下端、上端) B 1:主筋方向 (@100)

(20) (29) } B 2:補強筋方向 (@200)

(21) 基準層 (GL or 層名) 斜め:未使用データ

(22) (21)からのフーチング下端レベル (mm)

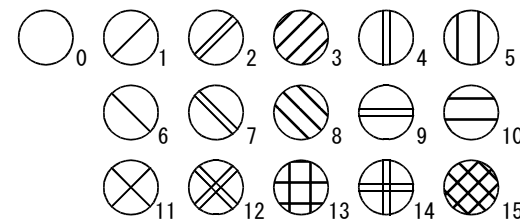
(23) リスト作図時に使用する柱幅

(24) リスト作図時に使用する柱成

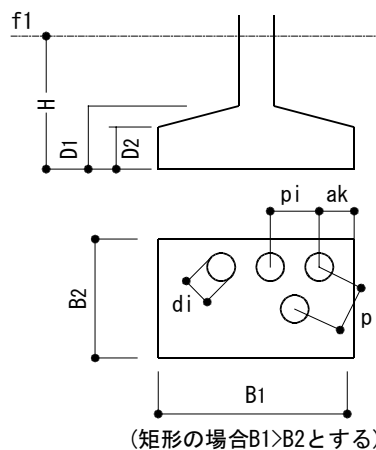
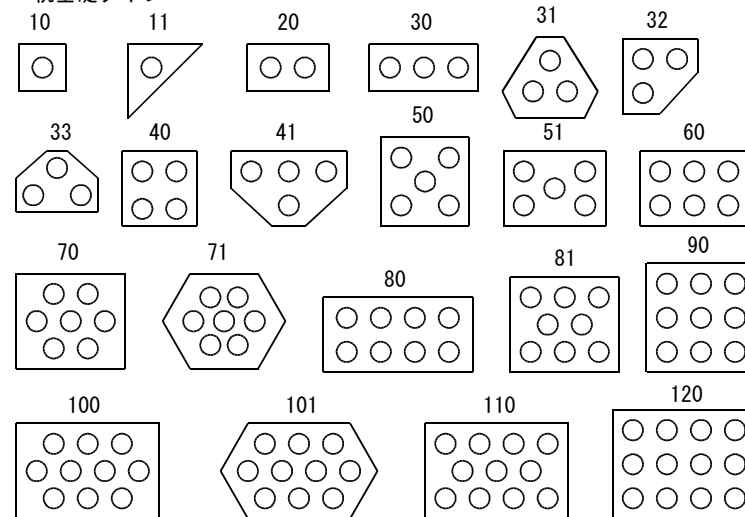
(25) (26) リスト作図時に使用する偏芯距離

d 1 = 杭頭径 d 3 = 拡底径

## 杭マーク番号



## 杭基礎タイプ



# INPUT DATA SHEET

杭標準データ

基礎 符号	杭径		主 筋		HOOP		標準配筋	
	φ	施工径	杭頭部	杭下部	A	B	杭頭部	杭下部
F								
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)

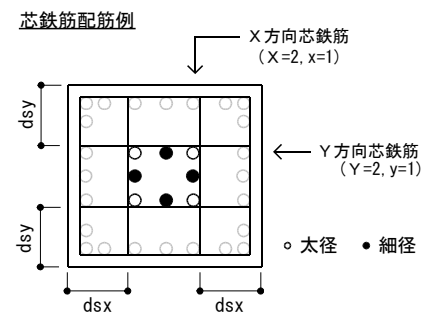
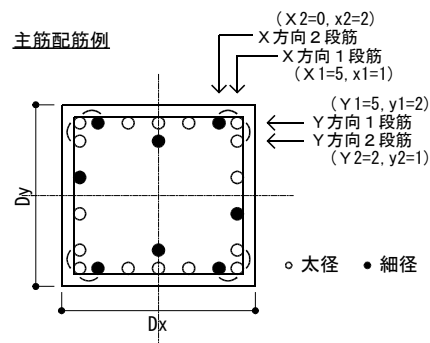
- (1) 杭が打たれる基礎の符号
- (2) 杭径
- (3) 杭の施工径
- (4) 杭頭部主筋の本数と鉄筋径 ( 例. 10-D25 )
- (5) 杭下部主筋の本数と鉄筋径 ( 例. 10-D25 )
- (6) Aの領域のHOOPの鉄筋径とそのピッチ ( 例. D10-@150 )
- (7) Bの領域のHOOPの鉄筋径とそのピッチ ( 例. D10-@150 )
- (8) 杭頭部の標準の配筋として、本数と鉄筋径を指定 ( 例. 10-D25 )
- (9) 杭下部の標準の配筋として、本数と鉄筋径を指定 ( 例. 10-D25 )

# INPUT DATA SHEET

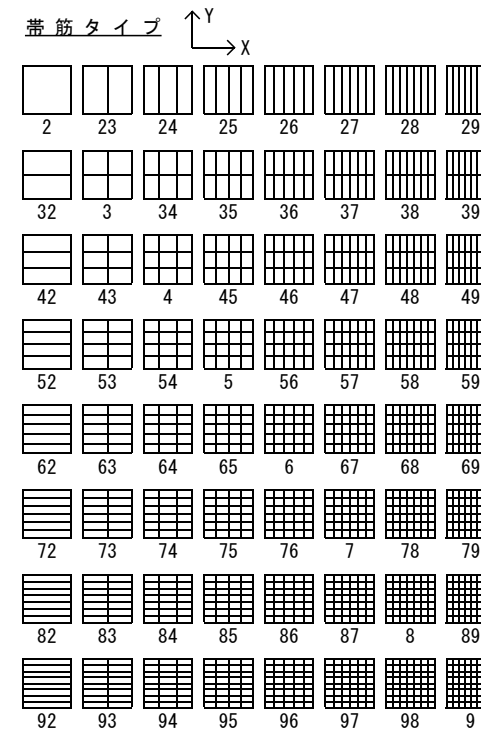
RC柱標準データ

階	符号	位置	形状		主筋径		X主筋本数				Y主筋本数				芯鉄筋径		芯鉄筋本数				芯鉄筋かぶり			HOOP		
			B	D	太	細	X1	x1	X2	x2	Y1	y1	Y2	y2	太	細	X	x	Y	y	dsx	dsy	径	型	ピッチ	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	

- (1) 最下階より数えた階数を入力、範囲指定可 (EX. 2-4)。
- (2) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力が表示される。変更時は **BS** で消去。英数字で7文字以内、数字のみの場合は範囲指定可。
- (3) 全断・・・ 1 or A、柱頭・・・ 2 or T、柱脚 (B) は自動発生
- (4) X 方向へ辺長 (円柱は0を入力) (mm)
- (5) Y 方向へ辺長 (円柱は直径を入力) (mm)
- (6) } 柱頭、柱脚の場合も共通の径を用いる (mm)
- (7) }
- (8) } X, Y 方向毎に対称を前提として本数を入力 (右図参照)。
- (15) }
- (16) } 芯鉄筋径 (太、細径) (mm)
- (17) }
- (18) } X、Y方向の芯鉄筋本数 (右図参照)
- (21) }
- (22) } X、Y方向の芯鉄筋かぶり (mm)
- (23) }
- (24) 帯筋径 (mm) (D?? or U?? or 高強度鉄筋使用材料で設定した鉄筋径)
- (25) 帯筋タイプ (右図参照)
- (26) 帯筋ピッチ (mm)



※芯鉄筋を入力した場合、帯筋タイプは4型以上を入力します。



スパイラルの場合は、タイプ番号の後に、Sを付けて下さい。



# INPUT DATA SHEET

一般スラブ標準データ

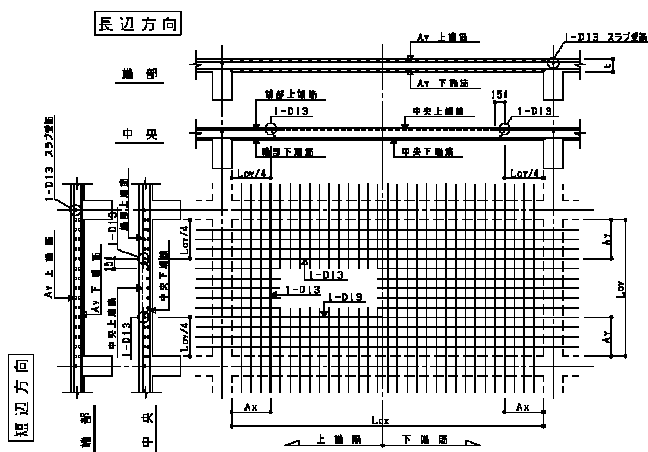
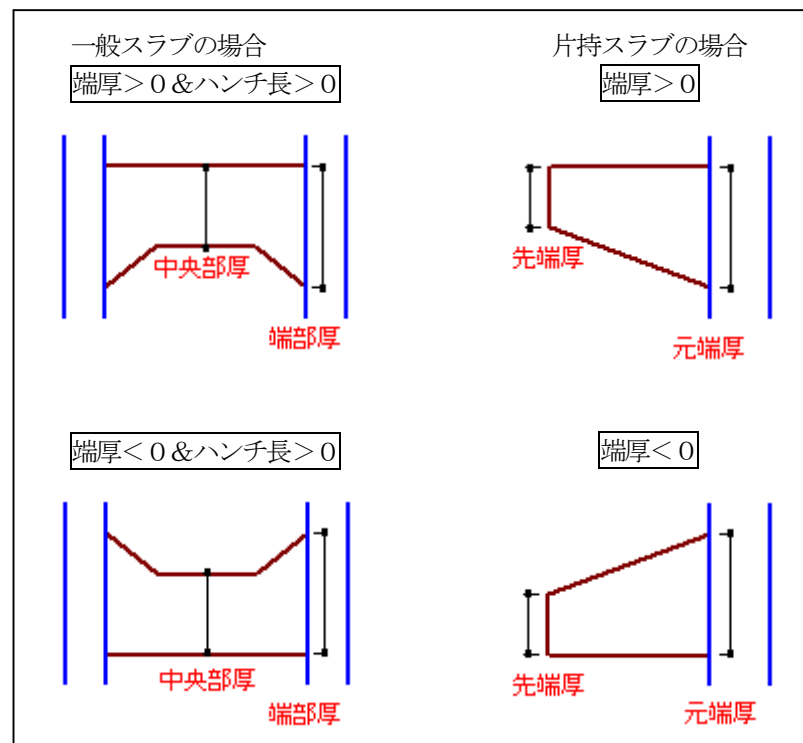
符号	床厚	仕上荷重	t	d	位置	端部			中央			Ax / Ay			端厚	ハンチ長
						径1	径1	PIT	径1	径2	PIT	径1	径2	PIT		
S					上	D	D		D	D		D	D			
					下	D	D		D	D		D	D			

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17)

- (1) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力が表示される。変更時は **BS** で消去。
- (2) 英数字で7文字以内。
- (3) 中央部厚、片持ちスラブの場合は先端厚 (mm)
- (4) 仕上荷重
- (5) 未使用データ
- (6) 両方向... 1 or A, 主筋方向... 2 or M, 配筋筋方向は自動発生
- (7) (10) (13) 鉄筋径 太径 (mm)
- (8) (11) (14) 鉄筋径 細径 (mm)
- (9) (12) (15) 配筋ピッチ (mm)
- (16) 端部厚、片持ちスラブの場合は元端厚 (中央、先端と等しい場合はブランク)
- (17) 端部厚と中央厚、元端厚と先端厚が異なる場合のハンチ長

## ハンチスラブ

端厚の項目にて、「+値」の場合はスラブ下端に傾斜がつき、「-値」の場合はスラブ天端に傾斜がつきます。





# INPUT DATA SHEET

一般壁標準データ

符号	OIB	壁厚	仕上 荷重	t	位 置	縦筋			横筋			開口縦		開口横		開口斜	
						径1	径2	ピッチ	径1	径2	ピッチ	n	径	n	径	n	径
W						D	D		D	D			D		D		D

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19)

- (1) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力が表示される。変更時は **BS** で消去。
- (2) 符号、英数字で7文字以内。
- (3) 0 (外壁)、I (内壁)、B (ブロック壁)
- (4) 構造体としての壁厚 (mm)
- (5) 仕上荷重 (増し打ち重量も含む)、作図作業のみの場合は入力不要。
- (6) 「0」と入力すると標準配筋 (右図参照)  
 「1」 or 「S」 はシングル配筋  
 「2」 or 「D」 はダブル配筋  
 「3」 or 「F」 は内側、外側の配筋が異なる場合  
 「4」 or 「C」 はチドリ配筋
- (7) 位置、配筋タイプによって自動発生
- (8) (11) 鉄筋径 (mm)
- (9) (12) 2種類の径を用いる場合の鉄筋径
- (10) (13) 配筋ピッチ
- (14) } 開口補強筋
- (19) }

\* 壁キー文字 “W” の前には壁の識別記号として以下の記号を入力することを想定しています。

_ (ブランク)	一般壁
E	耐震壁
O	外壁
OE	耐震外壁
F	地下壁
B	ブロック壁

\* 壁リストを作図する場合は、符号を以下のように判断します。

O	外壁
I	内壁
B	ブロック

### 標準配筋

壁厚 t	縦筋	横筋
120	D10-@200 シングル	D10-@200 シングル
150 (内側)	D10-@150 シングル	D10-@150 シングル
150 (外側)	D10-@200 ダブル	D10-@200 ダブル
180	D10-@200 ダブル	D10-@200 ダブル
200	D10-@200 ダブル	D10-@200 ダブル
250	D10・D13-@200 ダブル	D10・D13-@200 ダブル

# INPUT DATA SHEET

地下外壁標準データ

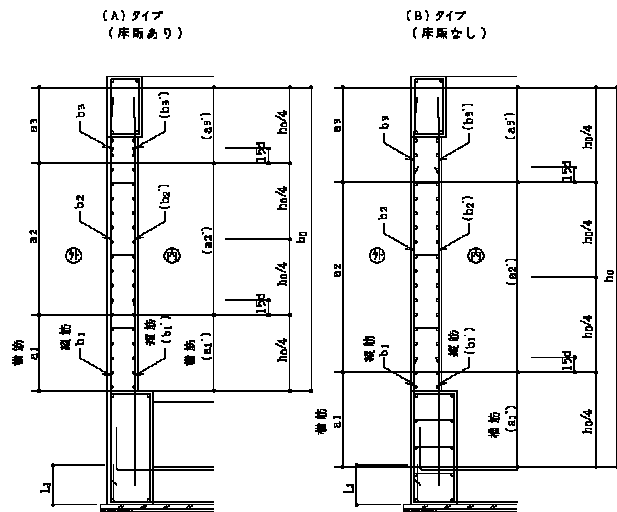
符号	T	壁厚	t	位置	縦筋 a1			縦筋 a2			縦筋 a3			横筋 b1			横筋 b2			横筋 b3		
					k1	k2	ピッチ	k1	k2	ピッチ	k1	k2	ピッチ	k1	k2	ピッチ	k1	k2	ピッチ	k1	k2	ピッチ
W					D	D		D	D		D	D		D	D		D	D		D	D	

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24)

- (1) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力が表示される。変更時は **BS** で消去。
- (2) 符号、英数字で7文字以内。
- (3) 床版ありの場合 = A、床版なしの場合 = Bを入力。(地下外壁標準図参照)
- (4) 構造体としての壁厚 (mm)
- (5) 「0」と入力すると標準配筋 (右図参照)  
 「1」or「S」はシングル配筋  
 「2」or「D」はダブル配筋  
 「3」or「F」は内側、外側の配筋が異なる場合  
 「4」or「C」はチドリ配筋
- (6) 位置、配筋タイプによって自動発生
- (7) } 地下外壁標準図参照
- (24) }

\* 壁キー文字“W”の前には壁の識別記号として以下の記号を入力することを想定しています。

_ (ブランク)	一般壁
E	耐震壁
O	外壁
OE	耐震外壁
F	地下壁
RE	地下外壁



注) Bタイプは壁の層筋に注意する事

## 標準配筋

壁厚 t	縦筋	横筋
120	D10-@200 シングル	D10-@200 シングル
150 (内側)	D10-@150 シングル	D10-@150 シングル
150 (外側)	D10-@200 ダブル	D10-@200 ダブル
180	D10-@200 ダブル	D10-@200 ダブル
200	D10-@200 ダブル	D10-@200 ダブル
250	D10・D13-@200 ダブル	D10・D13-@200 ダブル

# INPUT DATA SHEET

根巻標準データ

階	符号	根巻形状			鉄筋					スタッド							
		Dx	Dy	H	径	Nx	Ny	HOOB	ピッチ		φ	h	n	e	m	Hl	P
(1)	(2) N	(3)	(4)	(5)	(6) D	(7)	(8)	(9) D	(10) @	X Y	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)

- (1) } 根巻を配置する階、符号を入力する。
- (2) }
- (3) X方向辺長 (円柱は0を入力) (mm) (埋め込み型は-を入力)
- (4) Y方向辺長 (円柱は直径を入力) (mm)
- (5) 根巻上端レベルの初期値 (1) で定義した階からの上端レベル (mm)
- (6) 主筋径 (mm) 1種類のみ可
- (7) X方向主筋本数、丸柱の場合総本数
- (8) Y方向主筋本数、丸柱の場合不要
- (9) 帯筋径 (mm)
- (10) 帯筋ピッチ (mm)
- (11) 径 (mm)
- (12) 高さ (mm)
- (13) 列数
- (14) へり空き (mm)
- (15) 段数
- (16) 第1スタッド (mm) 下から1段目のBPL 下端からのレベル
- (17) 段のピッチ (mm)

(6)～(17)は未使用データ。

# INPUT DATA SHEET

## 開口標準データ

符号	d	n	t	X始点	Y始点	W(L)	H	n	t	X始点	Y始点	W(L)	H
K		1						2					
		3						4					

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)

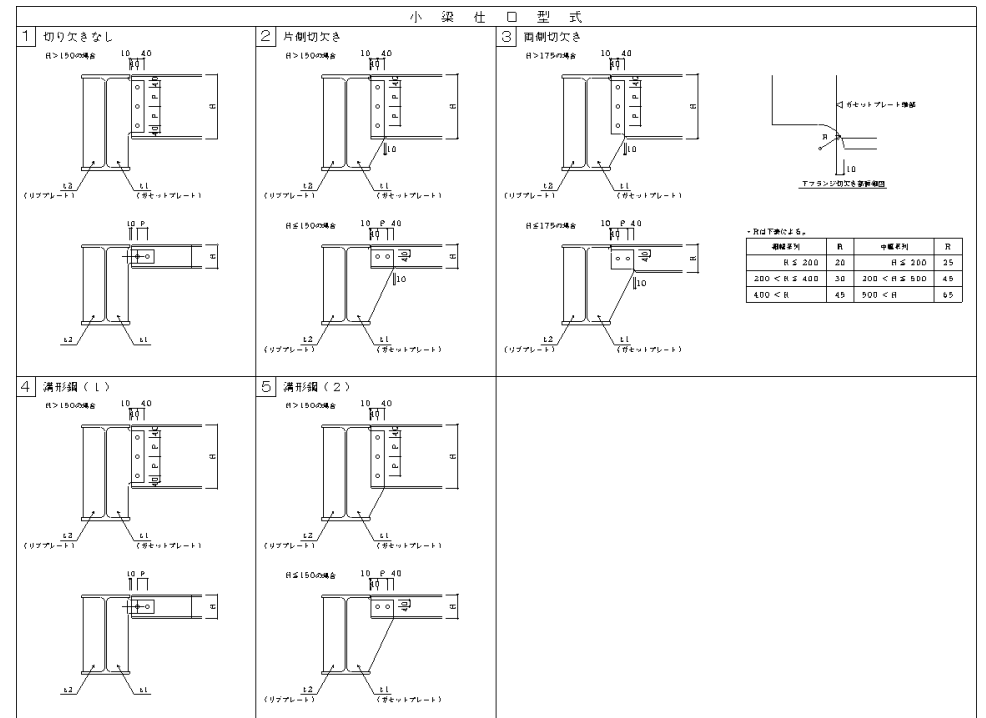
- (1) 開口番号
  - (2) 荷重伝達方式 自立壁・・・1 直接柱に・・・2 梁のCMQに・・・3 (作図と無関係)
  - (3) 開口種別 たれ壁・・・1 そで壁・・・2 一般開口・・・3
  - (4) 始点位置 押さえ、距離 フェイス押さえ・・・F 軸押さえ・・・J 開口芯フェイス押さえ・・・f 開口芯軸押さえ・・・j
  - (5) 一般開口の場合、距離を左からとる場合は距離を入力。右なら“－距離”(mm) そで壁の場合は(5)は左からのそで壁なら空白、右からなら“－”を入力する。
  - (6) 始点位置 押さえ、距離 フェイス押さえ・・・F 軸押さえ・・・J 開口芯フェイス押さえ・・・f 開口芯軸押さえ・・・j
  - (7) 距離を左から取る場合は空白。上からなら“－”(mm) たれ壁の場合(7)は“－”
  - (8) たれ壁、そで壁なら壁の長さ。一般開口なら開口の幅(mm)。
  - (9) 一般開口の場合の開口高さ(mm)
- (3) }  
 | } 4回まで繰り返し可能。  
 (9) }

# INPUT DATA SHEET

小梁仕口編集データ

符号	t	H	B	tw	tf	R	M	形式	ボルト	首下	GP	RP	P
B									-M				
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)

- (1) 部材定義で登録した小梁符号
- (2) 鋼材タイプ H(1), BH(2), C(3), HY(4), SH(5)
- (3) 成 (mm)
- (4) 幅 (mm)
- (5) ウェブ厚 (mm)
- (6) フランジ厚 (mm)
- (7) H型、CT型の場合のR (mm)
- (8) 材料番号  $\left( \begin{array}{l} \text{SS400} \cdot \cdot 1, \text{SM400} \cdot \cdot 2, \text{SM490} \cdot \cdot 3, \text{SM520} \cdot \cdot 4, \text{STK400} \cdot \cdot 5, \text{STK490} \cdot \cdot 6, \text{STKR400} \cdot \cdot 7, \text{STKR490} \cdot \cdot 8, \\ \text{SN400} \cdot \cdot \text{A}, \text{SN490} \cdot \cdot \text{B}, \text{SS490} \cdot \cdot \text{C}, \text{SS540} \cdot \cdot \text{D}, \text{BCR295} \cdot \cdot \text{E}, \text{BCP235} \cdot \cdot \text{F}, \text{BCP295} \cdot \cdot \text{G}, \text{BCP325} \cdot \cdot \text{H}, \\ \text{SPS1} \cdot \cdot \text{X}, \text{SPS2} \cdot \cdot \text{Y}, \text{SPS3} \cdot \cdot \text{Z} \end{array} \right)$
- (9) 標準図の形式番号：1~5
- (10) ボルトの本数、ボルト径 (例. 6-M22)
- (11) ボルトの首下長さ (mm)
- (12) ガセットプレート厚 (mm)
- (13) リブプレート厚 (mm)
- (14) ボルトピッチ (mm)



# INPUT DATA SHEET

S柱標準データ

階	符号	pt	位置	X-方向								Y-方向										
				t	H	B	tw	tf	R	M	WX	FX	t	H	B	tw	tf	R	M	WY	FY	T
	C																					

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23)

- (1) 最下階より数えた階数を入力、範囲指定可。
- (2) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力が表示される。変更時は **BS** で消去。英数字で7文字以内、数字のみの場合は範囲指定可。
- (3) 組み合わせパターン H(1), B(2), P(3), T(4), L(5), LX(6), LY(7), C(8) 別図参照。
- (4) 全断・・・ 1 or A、柱頭・・・ 2 or T、柱脚 (B) は自動発生。
- (5) 鋼材タイプ H(1), B(2), P(3), BH(4), BT(5), CT(6), HY(7), SH(8)
  - (1) (6) はユーティリティ中のテーブルより検索し、表示する。テーブルにない部材を入力したい場合は ではなく キーを用いる。
- BOX, H は Y 方向 ((13)~) に入力することができる。 EX. X 400 200 Y ---, X --- Y 400 200, X 400 200 Y ---, X --- Y 400 200
- (6) せい (mm)
- (7) 幅 (mm)
- (8) ウェブ厚 (mm)
- (9) フランジ厚 (mm)
- (10) H, CT, HY, SH, B の場合の R
- (11) 材料 {
  - SS400・・・ 1, SM400・・・ 2, SM490・・・ 3, SM520・・・ 4, STK400・・・ 5, STK490・・・ 6, STKR400・・・ 7, STKR490・・・ 8,
  - SN400・・・ A, SN490・・・ B, SS490・・・ C, SS540・・・ D, BCR295・・・ E, BCP235・・・ F, BCP295・・・ G, BCP325・・・ H,
  - SPS1・・・ X, SPS2・・・ Y, SPS3・・・ Z
- (12) ウェブ寄り ウェブ芯と左、下方向の躯体面との距離 (mm) (－の場合上、右方向)
- (13) かぶり厚 フランジと左、下方向の躯体面との距離 (mm) (－の場合上、右方向)
- (14) } Y 方向 (5)~(13) と同様
- (22) }
- (23) 通し方向 クロスの場合通し方向 X or Y

# INPUT DATA SHEET

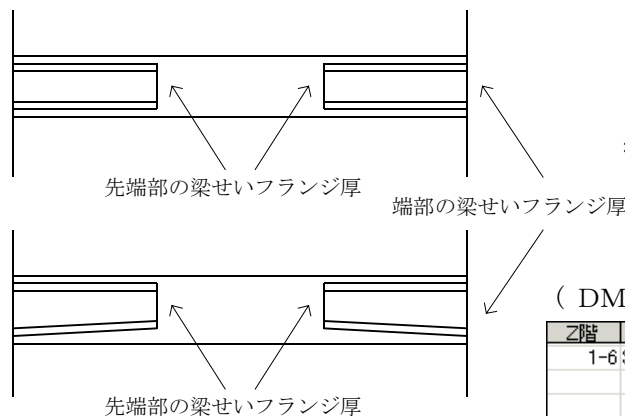
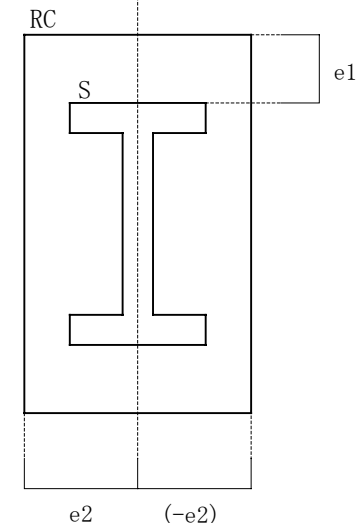
## S梁標準データ

階	符号	位	t	H	B	tw	tf	R	M	ハンチ	e1	e2
	SG											

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)

- (1) 最下階より数えた階数を入力、範囲指定可。
- (2) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力には表示される。変更時は **BS** で消去。英数字で7文字以内、数字のみの場合は範囲指定可。
- (3) 全断・・・ 1 or A,  
 端部・・・ 2 or E、中央 (C) は自動発生 (片持ち梁の場合は、元端・・・ 2 or E、先端 (C) は自動発生)  
 外端・・・ 3 or O、中央 (C) 内端 (I) は自動発生 (小梁の場合は、O C I タイプ入力不可)  
 左端・・・ 4 or L、中央 (C) 右端 (R) は自動発生
- (4) 鋼材タイプ H(1), BH(2), C(3), DM(4), HY(5), SH(6) (『DM(4)』は、中央断面のみ入力可能 (断面位置が"0"の場合のみ入力可能) \*1  
 H(1)はユーティリティ中のテーブルより検索し、表示する。テーブルにない部材を入力した場合は **←** ではなく **→** キーを使用する。  
 DM(4)は右図のような SRC, S の梁において中央断面がない場合に、先端部の梁せい、フランジ厚、フランジ幅、ウェブ厚を入力する。梁せい、フランジ厚は立面系、フランジ幅、ウェブ厚は平面系の図面に反映する。出の長さはハンチ長を入力する。
- (5) せい (mm)
- (6) 幅 (mm)
- (7) ウェブ厚 (mm)
- (8) フランジ厚 (mm)
- (9) H, CT, HY, SH の場合の R
- (10) 材料 SS400・・・ 1, SM400・・・ 2, SM490・・・ 3  
 SM520・・・ 4, STK400・・・ 5, STK490・・・ 6, STKR400・・・ 7, STKR490・・・ 8  
 SN400・・・ A, SN490・・・ B, SS490・・・ C, SS540・・・ D, BCR295・・・ E, BCP235・・・ F, BCP295・・・ G, BCP325・・・ H,  
 SPS1・・・ X, SPS2・・・ Y, SPS3・・・ Z
- (11) ハンチ長 (mm)、**←** キーならハンチなし。
- (12) 鉄骨上端のかぶり厚 (mm)
- (13) ウェブ芯と左方向の躯体面との距離 (mm) (-の場合、右方向)

鉄骨部材のかぶり厚 (SRC時に有効)



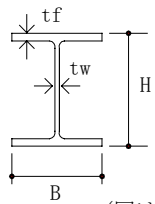
\*1 中央部材のないS梁を定義可能。  
 この時の部材寸法は左端または右端の先端断面を入力する。

( DM入力例 )

階	符号	位	t	H	B	tw	tf	R	M	ハンチ	e1	e2
1-6	SG1	E	H	400	200	8.0	13.0	16	1	1000	0	0
		C	DM	100	50	5.0	7.0		1			0

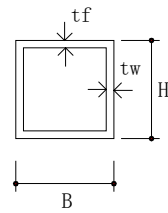
鉄骨柱のパターン別入力方法

1. H型

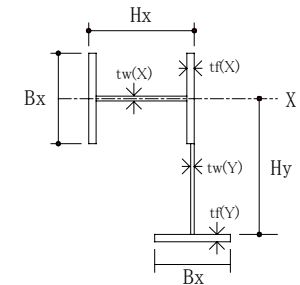
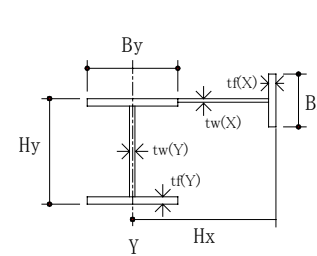


(図はY方向部材の例)

2. BOX型

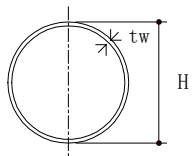


5. L型

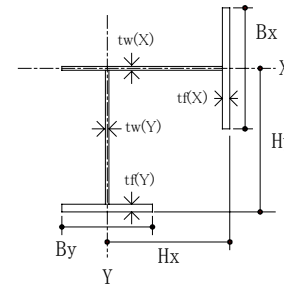


X:  $Hx \times Bx \times tw(X) \times tf(X)$   
Y:  $Hy \times By \times tw(Y) \times tf(Y)$

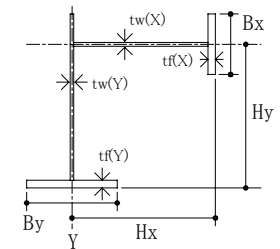
3. PIPE型



6. LX型

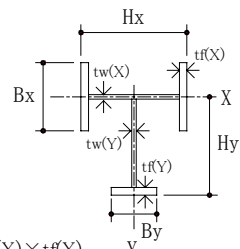
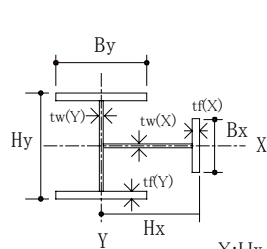


7. LY型



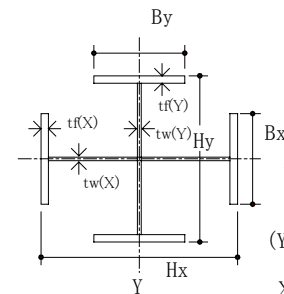
X:  $Hx \times Bx \times tw(X) \times tf(X)$   
Y:  $Hy \times By \times tw(Y) \times tf(Y)$

4. T型



X:  $Hx \times Bx \times tw(X) \times tf(X)$   
Y:  $Hy \times By \times tw(Y) \times tf(Y)$

8. C型



(Y方向部材が通っている例)

X:  $Hx \times Bx \times tw(X) \times tf(X)$   
Y:  $Hy \times By \times tw(Y) \times tf(Y)$

# INPUT DATA SHEET

垂直ブレース標準データ

階	符号	形状			断面							左部材			右部材			ボルト		
		PT	L1	L2	kei	P1	P2	P3	P4	P5	M	H	B	T	H	B	T	径	行	列
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	(21)

- (1) 最下階より数えた階数を入力、範囲指定可。
- (2) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力が表示される。変更時は[BS] で消去。英数字で7文字以内、数字のみの場合は範囲指定可。
- (3) パターン X(1), L(2), R(3), K1(4), V1(5), K2(6), V2(7), K2(8), V3(9)
- (4) 節点位置 ℓ1 (mm) パターンK1, V1 の時[←] キーならスパンの中央
- (5) 節点位置 ℓ2 (mm)
- (6) 形状 C(1)=Cチャンネル, M(2)=溝型鋼, 2M(3)=溝型鋼 (2丁使い), L(4)山型鋼, 2L(5)=山型鋼 (2丁使い)  
H(6)=ロールH型鋼, R(7)=丸鋼, P(8)=パイプ, B(9)=BOXパイプ, BH(0)=ビルドH型鋼

- (7) } パラメーター
- (11) } { SS400・1, SM400・2, SM490・3, SM520・4, STK400・5, STK490・6, STKR400・7, STKR490・8, }
- (12) } 材料 { SN400・A, SN490・B, SS490・C, SS540・D, BCR295・E, BCP235・F, BCP295・G, BCP325・H, SPS1・X, SPS2・Y, SPS3・Z }

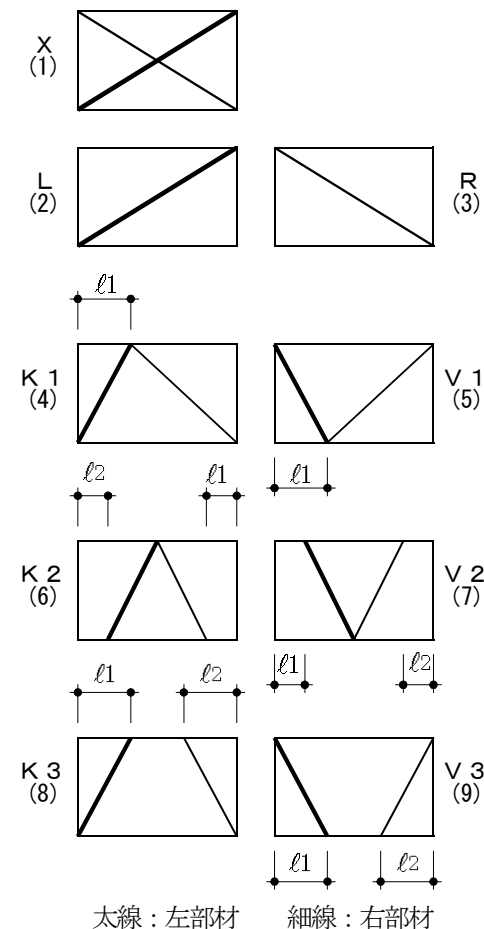
- (13) } 端部条件 H・断面方向(1~4), B・部材下側端部条件(1:ピン0:剛), T・部材上側端部条件(1:ピン0:鋼)
- (18) } 左右部材は右図参照

- (19) } ボルト条件 端部ボルト径・行・列のいずれかが”0”の場合、ボルトを作画しない。
- (21) } 形状が丸鋼・パイプの場合は、端部ボルト入力不可とする。

< パラメーター >

- C(1) : C-H×A×B×t 軽量形鋼 Cチャンネル
- M(2) : M-A×B×t1×t2 一般形鋼 溝型鋼
- 2M(3) : 2M-A×B×t1×t2 一般形鋼 溝型鋼(2丁使い)
- L(4) : L-A×B×t 一般形鋼 山型鋼
- 2L(5) : 2L-A×B×t 一般形鋼 山型鋼(2丁使い)
- H(6) : H-H×B×t1×t2×r 一般形鋼 H形鋼
- R(7) : R-r 丸鋼
- P(8) : P-A×t パイプ
- B(9) : B-A×B×t BOX
- BH(0) : BH-H×B×t1×t2 BH形鋼

	断面方向			
断面	1	2	3	4
C	C	C	C	C
[	[	┌	┐	┌
2[	][	┌┌	┐┐	┌┌
L	L	┌	┐	┌
2L	┌┌	┌┌	┐┐	┌┌
H	H	H	H	H
P	○	○	○	○
B	□	□	□	□



# INPUT DATA SHEET

水平ブレース標準データ

符号	ブレース寸法					
	形	P1	P2	P3	P4	P5
V						
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)

(1) キー文字登録をしたキー符号、直前の入力が表示される。変更時は $\boxed{BS}$  で消去。英数字で7文字以内、数字のみの場合は範囲指定可。

(2) 形状 C(1)=Cチャンネル, M(2)=溝型鋼, 2M(3)=溝型鋼(2丁使い), L(4)山型鋼, 2L(5)=山型鋼(2丁使い)

H(6)=ロールH型鋼, R(7)=丸鋼, P(8)=パイプ, B(9)=BOXパイプ

(3) }  
| } パラメーター  
(7) }

< パラメーター >

C(1) : C-H×A×B×t 軽量形鋼 Cチャンネル  
M(2) : M-A×B×t 1×t 2 一般形鋼 溝型鋼  
2M(3) : 2M-A×B×t 1×t 2 一般形鋼 溝型鋼(2丁使い)  
L(4) : L-A×B×t 一般形鋼 山形鋼  
2L(5) : 2L-A×B×t 一般形鋼 山形鋼(2丁使い)  
H(6) : H-H×B×t 1×t 2×r 一般形鋼 H形鋼  
R(7) : R-r 丸鋼  
P(8) : P-A×t パイプ  
B(9) : B-A×B×t BOX

# INPUT DATA SHEET

ベースプレート標準データ

階	符号	ベースプレート					アンカーボルト								h	
		PT	T	BP	M	レベル	AB	M	L	e1	e2	n1	n2	l1		l2
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)

(1) } S柱定義と同じ符号を入力する。例えば、1C1の場合は、Z1のC1のベースプレートの定義となる。

(2) }

(3) 柱のタイプは、(1)-(3)のS柱符号の入力により自動発生する。

(4) 形状タイプ (別表参照)

(5) ベースプレートの厚さ (mm)

(6) 材料 ( SS400・1, SM400・2, SM490・3, SM520・4, STK400・5, STK490・6, STKR400・7, STKR490・8, SN400・A, SN490・B, SS490・C, SS540・D, BCR295・E, BCP235・F, BCP295・G, BCP325・H, SPS1・X, SPS2・Y, SPS3・Z )

(7) ベースプレートの下端レベル(1)で定義した階からのレベル (mm)

(8) アンカーボルトの径 (mm)

(9) アンカーボルトの材種

(10) アンカーボルトの長さ

(11) 部材とB<sub>PL</sub>のへりあき (mm)

(12) 部材とB<sub>PL</sub>のはしあき (mm)

(13) アンカーボルトの本数 (タイプにより異なる)

(14) アンカーボルトの本数 (タイプにより異なる)

(15) アンカーボルトの位置1

(16) アンカーボルトの位置2

(17) しぼり位置 ベースプレート上端から高さhの所からしぼり始める。

(10)は作図には未使用。



# INPUT DATA SHEET

床組標準データ(小梁)

符号	通り	配置位置	T	K i	K j	Level	寄り	L f	D f	R f	U f	LD	x	y	RD	x	y
B																	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)

- (1) 定義済 小梁符号(RC, S, SRC)
- (2) 配置するローカル軸
- (3) 配置する始終点位置
- (4) 通しタイプ : M(メイン)、S(サブ) (伏図見上げで作図の場合、M(メイン)の小梁を通して作図)
- (5) 始点側 接合タイプ : 0(剛接合)、1(ピン接合)
- (6) 終点側 接合タイプ : 0(剛接合)、1(ピン接合)
- (7) FLからの小梁上面レベル(mm)
- (8) 寄り寸法(mm)
- (9) 左側 フカシ厚(mm)
- (10) 下側 フカシ厚(mm)
- (11) 右側 フカシ厚(mm)
- (12) 上側 フカシ厚(mm)
- (13) 左下コーナー処理 タイプ : 0(なし)、1(面取り)、2(欠込み)
- (14) 左下コーナー処理 X寸法(mm)
- (15) 左下コーナー処理 Y寸法(mm)
- (16) 右下コーナー処理 タイプ : 0(なし)、1(面取り)、2(欠込み)
- (17) 右下コーナー処理 X寸法(mm)
- (18) 右下コーナー処理 Y寸法(mm)

# INPUT DATA SHEET

## 床組標準データ(壁)

符号	通り	始点位置	壁長	寄	L f	R f	
W							
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)

- (1) 定義済 壁符号
- (2) 配置するローカル軸
- (3) 配置する始点軸
- (4) 配置する始点軸からの距離(mm)
- (5) 壁の長さ(mm)
- (6) 寄りタイプ : L(小梁の左面と壁の左面を合わせる)  
C(小梁の芯と壁の芯を合わせる)  
R(小梁の右面と壁の右面を合わせる)
- (7) 左側 フカシ厚(mm)
- (8) 右側 フカシ厚(mm)

(補足) 円弧ローカル軸上の壁は、小梁が配置されている場合は円弧壁、小梁が配置されていない場合は直線壁となります。

# INPUT DATA SHEET

床組標準データ(スラブ)

符号	N	d	Level	U f	D f
S					

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)

- (1) 定義済 スラブ符号
- (2) 配置する番号
- (3) 伝達方向 (X, Y, XY)
- (4) スラブタイプ : B(底盤)
- (5) FLからのレベル(mm) : 押さえ位置は上面(底盤は下面)
- (6) 上側 フカシ厚(mm)
- (7) 下側 フカシ厚(mm)

# INPUT DATA SHEET

床組標準データ(水平ブレース)

符号	基点	始点						終点						方向	
		X i	Y i	レベル	D x	D y	端	X j	Y j	レベル	D x	D y	端		
V															
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	

- (1) 定義済 水平ブレース符号
- (2) レベル基点 (ローカル軸FLから) 0:部材芯、1:上面、2:下面
- (3)(4) 始点側 ローカル軸節点
- (5) 始点側 レベル(mm)
- (6)(7) 始点側 寄り寸法(mm)
- (8) 始点側 端部条件 0:剛接合、1:ピン接合
- (9)(10) 終点側 ローカル軸節点
- (11) 終点側 レベル(mm)
- (12)(13) 終点側 寄り寸法(mm)
- (14) 終点側 端部条件 0:剛接合、1:ピン接合
- (15) 断面方向(1~4)

断面方向

	1	2	3	4
C	C	∩	∪	∩
[	[	⌈	⌋	⌈
2[	⌋⌈	⌈⌈		
L	L	⌈	⌋	⌈
2L	⌋L	⌈L	⌋⌈	⌈L
H	H	H		
P	○			
B	□	□		



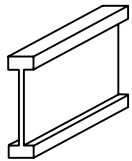
# INPUT DATA SHEET

壁組標準データ(小梁)

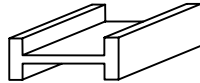
符号	Z	配置位置	T	K i	K j	Level	H
B							
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)

- (1) 定義済 小梁符号(鉄骨部材)
- (2) 配置するローカルZ軸
- (3) 配置する始終点位置(X) : (X i - X j)
- (4) 通しタイプ : M(メイン)、S(サブ)
- (5) 始点側 接合タイプ : 0(剛接合)、1(ピン接合)
- (6) 終点側 接合タイプ : 0(剛接合)、1(ピン接合)
- (7) ローカルZ n軸からの小梁上面レベル(mm)
- (8) 断面方向 : 0(縦配置)、1(横配置)

断面方向



0(縦配置)



1(横配置)

### 通しタイプ

小梁と間柱の取付かたを指定する事が出来ます。

【 M(メイン) 】 小梁に間柱が取付きます。

【 S(サブ) 】 間柱に小梁が取付きます。

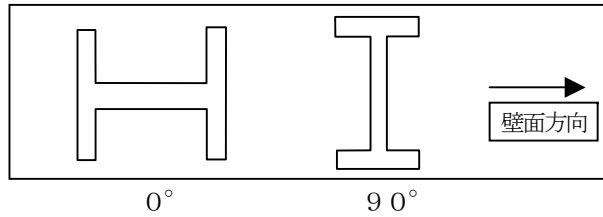
# INPUT DATA SHEET

## 壁組標準データ(間柱)

符号	X	始点位置	Kd	Ku	R	寄り
P						

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)

- (1) 定義済 間柱符号(鉄骨部材)
- (2) 配置するローカルX軸
- (3) 配置する始点位置(Z) : (Z<sub>i</sub>-Z<sub>j</sub>)
- (4) 柱脚側 接合タイプ : 0(剛接合)、1(ピン接合)
- (5) 柱頭側 接合タイプ : 0(剛接合)、1(ピン接合)
- (6) 回転角度(部材座標系に対する回転角度) (°) : 空欄の場合、壁面に対して[0°]となります。
- (7) 寄りタイプ : L(X<sub>n</sub>軸と間柱の左面を合わせる)  
C(X<sub>n</sub>軸と間柱の芯を合わせる)  
R(X<sub>n</sub>軸と間柱の右面を合わせる)
- (8) 寄り位置(mm)

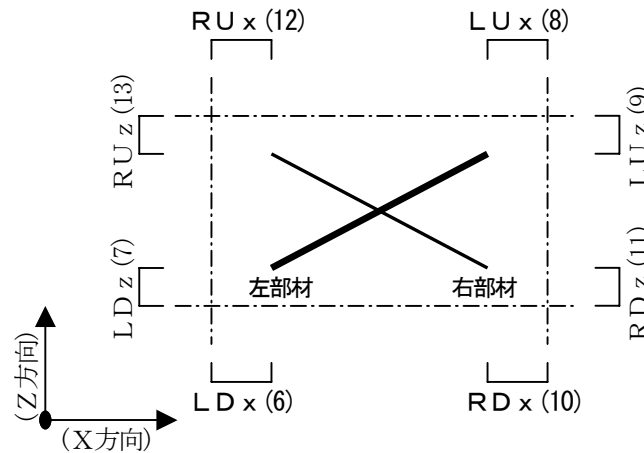
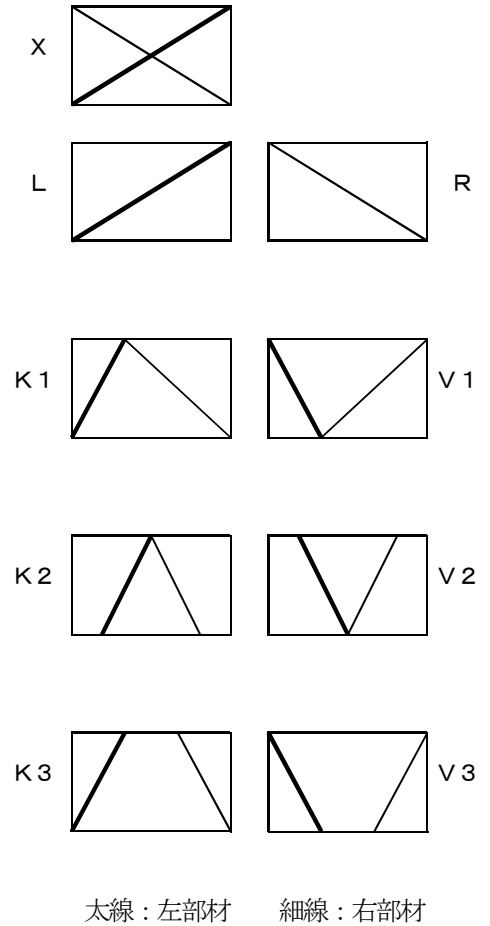


# INPUT DATA SHEET

壁組標準データ(垂直ブレース)

符号	配置位置				寄り								
	X i	Z i	X j	Z j	LD x	LD z	LU x	LU z	RD x	RD z	RU x	RU z	
V													
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)

- (1) 定義済 垂直ブレース符号
- (2)(3) 配置位置左下のローカル軸交点
- (4)(5) 配置位置右上のローカル軸交点
- (6)(7) 左部材下側 寄り位置(mm)
- (8)(9) 左部材上側 寄り位置(mm)
- (10)(11) 右部材下側 寄り位置(mm)
- (12)(13) 右部材上側 寄り位置(mm)



# INPUT DATA SHEET

柱継手編集(フランジ)

符号	柱 型	断面寸法					材 種	フランジ							NP NG	P G	Pe Ge	Pes Ges
		種別	H	B	tw	tf		列	n	Mxx	首下	t1	t2					
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	
															(19)	(20)	(21)	(22)

- (1) 編集する柱符号
  - (2) 部材形状パターン : H(1), B(2), T(3), L(4), C(5)
  - (3) 断面タイプ : H(1), BH(2), B(3), T(4), BT(5), CT(6), HY(7), SH(8)
  - (4) 成 (mm)
  - (5) 幅 (mm)
  - (6) ウェブ厚 (mm)
  - (7) フランジ厚 (mm)
  - (8) 材料種別 : \*\*
  - (9) 列数 (9:千鳥)
  - (10) ボルト本数
  - (11) ボルト径 (mm)
  - (12) ボルト首下長さ (mm)
  - (13) 外側板厚 (mm)
  - (14) 内側板厚 (mm)
  - (15) P方向 ピッチ数
  - (16) P方向 ピッチ (mm)
  - (17) P方向 縁端距離 (mm)
  - (18) P方向 ボルト位置 (mm)
  - (19) G方向 ピッチ数
  - (20) G方向 ピッチ (mm)
  - (21) G方向 縁端距離 (mm)
  - (22) G方向 ボルト位置 (mm)
- \*\* = : 「1」SS400、「2」SM400、「3」SM490、「4」SM520、「5」STK400、「6」STK490、「7」STKR400、「8」STKR490、  
 「A」SN400、「B」SN490、「C」SS490、「D」SS540、「E」BCR295、「F」BCP235、「G」BCP295、「H」BCP235、  
 「X」SPS1、「Y」SPS2、「Z」SPS3

# INPUT DATA SHEET

柱継手編集(ウェブ1)

符号	柱型	断面寸法					材種	ウェブ (1)							NP NG	P G	Pe Ge	Pes Ges
		種別	H	B	tw	tf		列	h3	n-Mxx	首下	P3	t3					
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)
															(20)	(21)	(22)	(23)

- (1) 編集する柱符号
- (2) 部材形状パターン : H(1), B(2), T(3), L(4), C(5)
- (3) 断面タイプ : H(1), BH(2), B(3), T(4), BT(5), CT(6), HY(7), SH(8)
- (4) 成 (mm)
- (5) 幅 (mm)
- (6) ウェブ厚 (mm)
- (7) フランジ厚 (mm)
- (8) 材料種別 : \*\*
- (9) 列数 (9:千鳥)
- (10) 長い方の成 (mm)
- (11) ボルト本数
- (12) ボルト径 (mm)
- (13) ボルト首下長さ (mm)
- (14) G方向 ボルトピッチ (mm)
- (15) 板厚 (mm)
- (16) P方向 ピッチ数
- (17) P方向 ピッチ (mm)
- (18) P方向 縁端距離 (mm)
- (19) P方向 ボルト位置 (mm)
- (20) G方向 ピッチ数
- (21) G方向 ピッチ (mm)
- (22) G方向 縁端距離 (mm)
- (23) G方向 ボルト位置 (mm)

\*\* = : 「1」SS400、「2」SM400、「3」SM490、「4」SM520、「5」STK400、「6」STK490、「7」STKR400、「8」STKR490、  
 「A」SN400、「B」SN490、「C」SS490、「D」SS540、「E」BCR295、「F」BCP235、「G」BCP295、「H」BCP325、  
 「X」SPS1、「Y」SPS2、「Z」SPS3

# INPUT DATA SHEET

柱継手編集(ウェブ2)

符号	柱型	断面寸法					材種	ウェブ (2)							NP NG	P G	Pe Ge	Pes Ges	
		種別	H	B	tw	tf		列	h4	n-Mxx	首下	P4	t4	t5					
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)
																(21)	(22)	(23)	(24)

- (1) 編集する柱符号
  - (2) 部材形状パターン : H(1), B(2), T(3), L(4), C(5)
  - (3) 断面タイプ : H(1), BH(2), B(3), T(4), BT(5), CT(6), HY(7), SH(8)
  - (4) 成 (mm)
  - (5) 幅 (mm)
  - (6) ウェブ厚 (mm)
  - (7) フランジ厚 (mm)
  - (8) 材料種別 : \*\*
  - (9) 列数 (9:千鳥)
  - (10) 短い方の成 (mm)
  - (11) ボルト本数
  - (12) ボルト径 (mm)
  - (13) ボルト首下長さ (mm)
  - (14) G方向 ボルトピッチ (mm)
  - (15) 板厚 (mm)
  - (16) 添え板厚 (mm)
  - (17) P方向 ピッチ数
  - (18) P方向 ピッチ (mm)
  - (19) P方向 縁端距離 (mm)
  - (20) P方向 ボルト位置 (mm)
  - (21) G方向 ピッチ数
  - (22) G方向 ピッチ (mm)
  - (23) G方向 縁端距離 (mm)
  - (24) G方向 ボルト位置 (mm)
- \*\* = : 「1」SS400、「2」SM400、「3」SM490、「4」SM520、「5」STK400、「6」STK490、「7」STKR400、「8」STKR490、  
 「A」SN400、「B」SN490、「C」SS490、「D」SS540、「E」BCR295、「F」BCP235、「G」BCP295、「H」BCP325、  
 「X」SPS1、「Y」SPS2、「Z」SPS3



# INPUT DATA SHEET

梁継手編集(ウェブ)

断面寸法					材 種	フランジ						NP	P	Pe	Pes
種別	H	B	tw	tf		列	n	-Mxx	首下	P	T3	NG	G	Ge	Ges

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16)  
 (17) (18) (19) (20)

(1) 断面タイプ : H(1), BH(2), B(3), T(4), BT(5), C(6), HY(7), SH(8)

(2) 成 (mm)

(3) 幅 (mm)

(4) ウェブ厚 (mm)

(5) フランジ厚 (mm)

(6) 材料種別 : \*\*

(7) 列数 (9:千鳥)

(8) ボルト本数

(9) ボルト径 (mm)

(10) ボルト首下長さ (mm)

(11) P方向ボルトピッチ (mm)

(12) 板厚 (mm)

(13) P方向 ピッチ数

(14) P方向 ピッチ (mm)

(15) P方向 縁端距離 (mm)

(16) P方向 ボルト位置 (mm)

(17) G方向 ピッチ数

(18) G方向 ピッチ (mm)

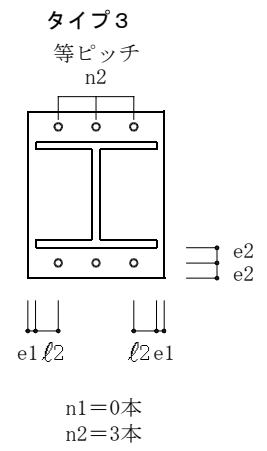
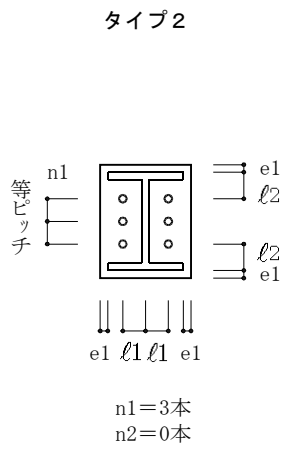
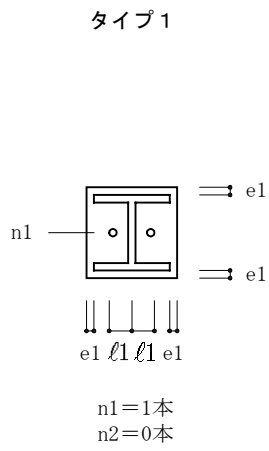
(19) G方向 縁端距離 (mm)

(20) G方向 ボルト位置 (mm)

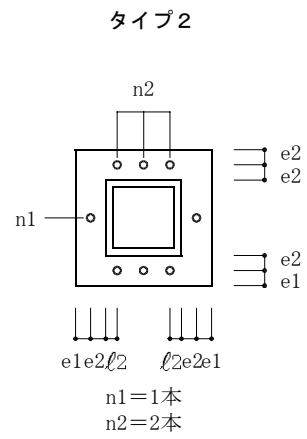
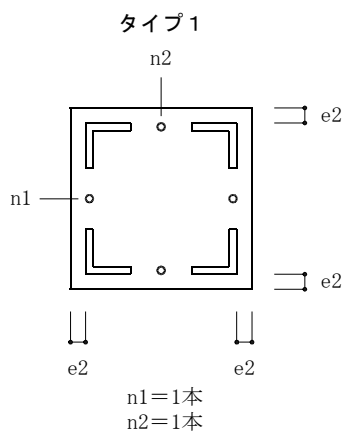
\*\* = : 「1」SS400、「2」SM400、「3」SM490、「4」SM520、「5」STK400、「6」STK490、「7」STKR400、「8」STKR490、  
 「A」SN400、「B」SN490、「C」SS490、「D」SS540、「E」BCR295、「F」BCP235、「G」BCP295、「H」BCP325、  
 「X」SPS1、「Y」SPS2、「Z」SPS3

# ベースプレート(アンカープランに出力)

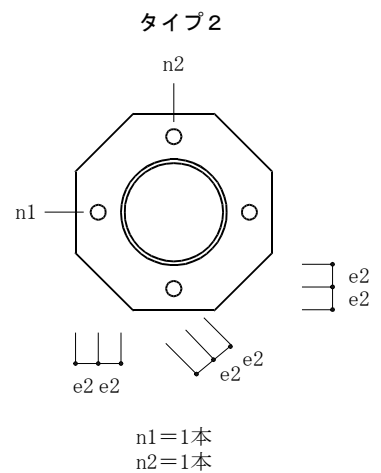
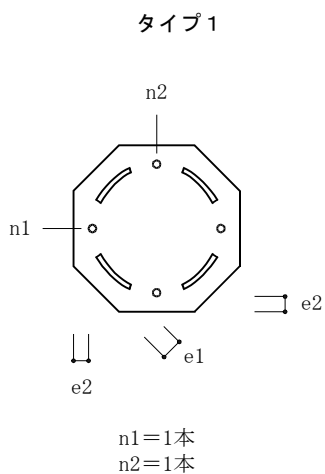
(1) H



(2) B



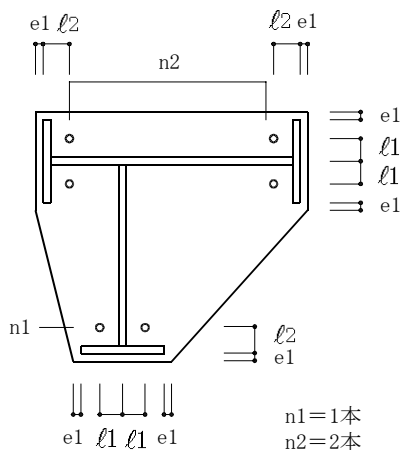
(3) P



# ベースプレート

(4) T

タイプ1

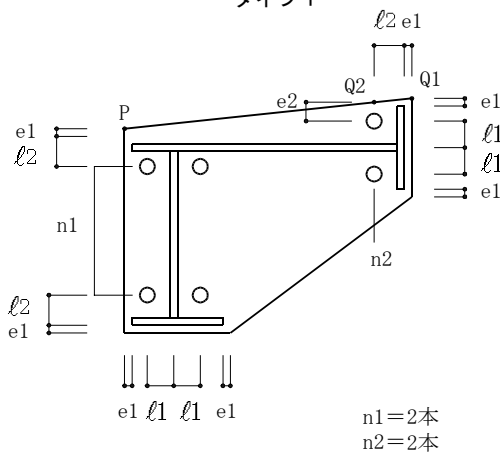


(5) L

(6) LX

(7) LY

タイプ1



仮想点Q1, Q2とし,  
PQ1とPQ2で,  
外側に来るものを  
外形線とする。

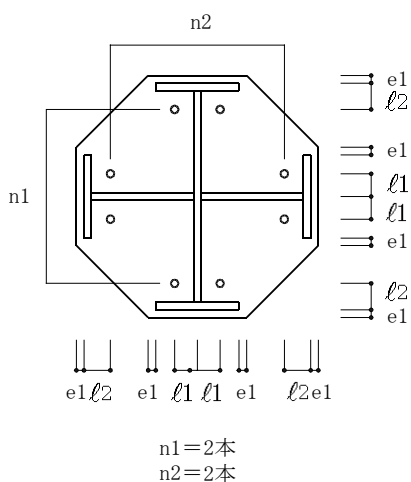
$$X_1 = l_1 + e_2$$

$$X_2 = B / 2 + e_1$$

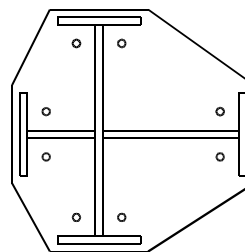
$$X = \text{Max}(X_1, X_2)$$

(8) C

タイプ1



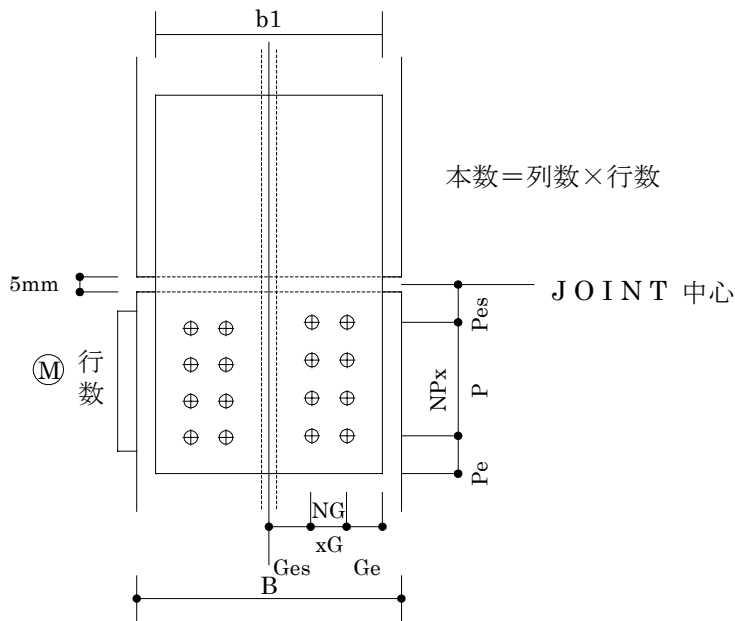
タイプ2



$l_1$ : ウェブ芯からボルトまでの距離  
 $l_2$ : フランジの外側からボルトまでの距離  
 $e_1$ : フランジの外側からベースプレート外形線までの距離  
 $e_2$ : ボルト中心からベースプレート外形線までの距離

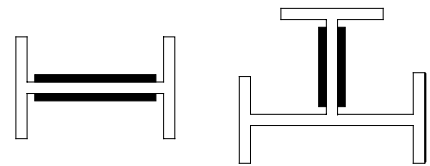
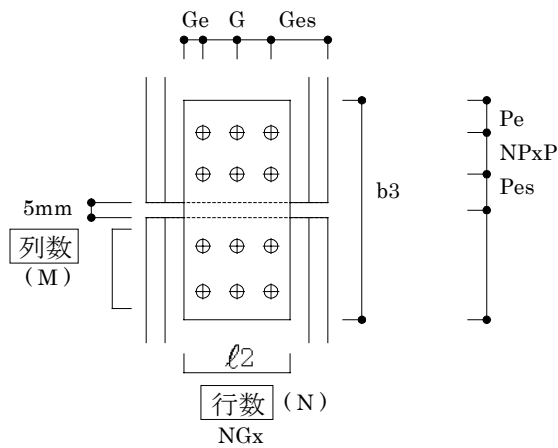
記号説明図 柱の継手

[柱フランジ]

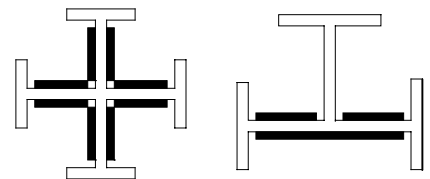
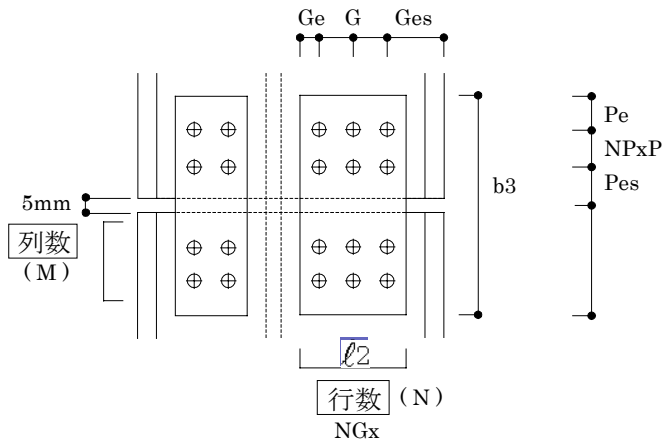


母材のフランジ幅	プレート幅 b1
124 <math>\leq B \leq 140</math>	125
140 <math>< B \leq 165</math>	150
165 <math>< B \leq 190</math>	175
190 <math>< B \leq 240</math>	200
240 <math>< B \leq 290</math>	250
290 <math>< B \leq 340</math>	300
340 <math>< B \leq 390</math>	350
390 <math>< B \leq 410</math>	400

[柱のウェブ] (A)

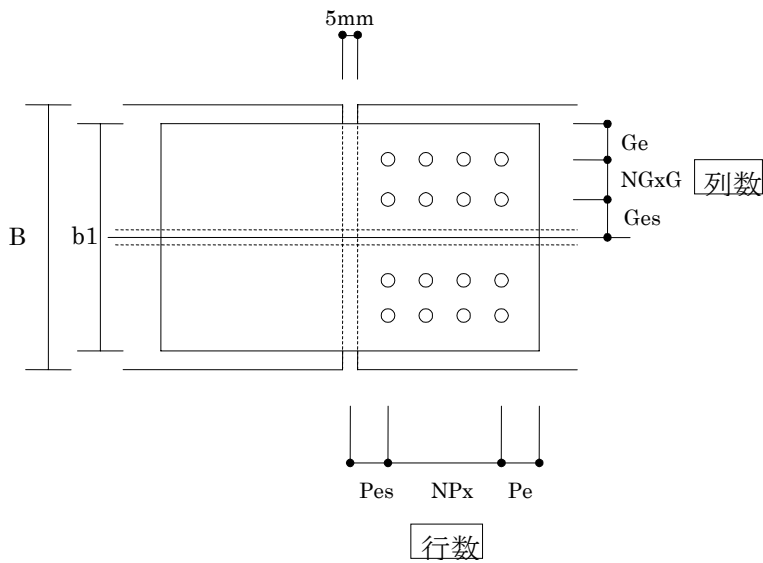


[柱のウェブ] (B)

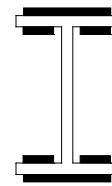


記号説明図 梁の継手

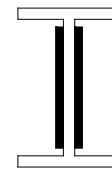
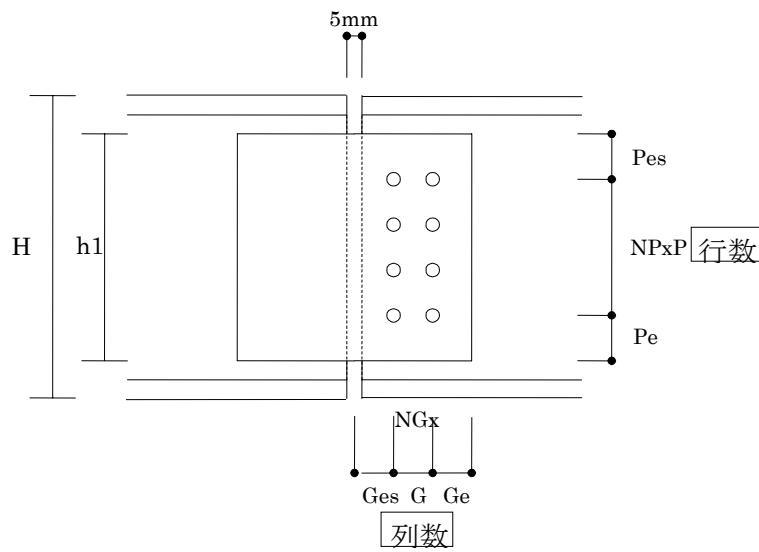
[梁のフランジ]



母材のフランジ幅	プレート幅 $b1$
$124 \leq B \leq 140$	125
$140 < B \leq 165$	150
$165 < B \leq 190$	175
$190 < B \leq 240$	200
$240 < B \leq 290$	250
$290 < B \leq 340$	300
$340 < B \leq 390$	350
$390 < B \leq 410$	400



[梁のウェブ]



# S I R C A D

## ユーザーズマニュアル

<Program Ver4.00>

2007年08月版 発行

2008年02月版 発行

2009年01月版 発行

2009年07月版 発行

2009年12月版 発行

2011年11月版 発行

2012年01月版 発行

2012年02月版 発行

販売元：(株)ソフトウェアセンター

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-2-10

SN岩本町ビル6F

TEL 03 (3866) 2095

FAX 03 (3861) 0449

support@scinc.co.jp